

2019年度 強化育成事業 第1回 全国ブロック選抜合宿 報告書



一般社団法人日本 FID バスケットボール連盟

2019年度 第1回ブロック選抜合宿 報告

(一社)日本FIDバスケットボール連盟
理事 全国ブロック長 藤田 景一

【事業概要】

目的:代表チームに繋がる一貫指導体制のもと、個人能力を見極め、個人スキルの向上を図る また事業内容を各ブロックにて伝達し強化普及・育成することを目的とする

参加人数:男子選手18名、女子選手4名、スタッフ21名 /計43名

実施会場:東京都立王子特別支援学校体育館 〒114-0033 東京都北区十条台1-8-41

東京都立北特別支援学校体育館 〒114-0033 東京都北区十条台1-1-1

宿泊会場:赤羽プラザホテル 〒115-0044 東京都北区南赤羽1-9-12

事業日程:

月日	時間	内容	
		男子	女子
6/29(土)	10:30	現地集合、全体ミーティング、諸説明	現地集合、全体ミーティング、諸説明
	11:00	練習①(王子)	測定(王子)
	12:30	測定(王子)	練習①(王子)
	13:45	昼食	昼食
	15:15	練習②(王子)	練習②(王子)
	17:30	練習終了	練習終了
	19:00	夕食・宿舎入り	夕食・宿舎入り
6/30(日)	9:00	練習③(北)	練習③(王子)
	12:00	練習終了・移動・昼食	練習終了・移動・昼食
	13:45	講義(スポセン会議室)	講義(スポセン会議室)
	14:15	コーチ面談	コーチ面談
	15:00	現地解散	現地解散

※(王子)都立王子特別支援学校、(北)北特別支援学校、(スポセン)東京都障がい者スポーツセンター会議室

事業参加者:

<コーチ・スタッフ>

役職	氏名	所属
男子・女子代表チーム総括	小嶋 隆司	一般社団法人 日本FIDバスケットボール連盟
全国ブロック長	藤田 景一	一般社団法人 日本FIDバスケットボール連盟
北海道・東北ブロック担当委員	五十嵐 舞	一般社団法人 日本FIDバスケットボール連盟
関東ブロック担当委員	小嶋 祐希	一般社団法人 日本FIDバスケットボール連盟
東海・北信越ブロック担当委員	工藤 義教	一般社団法人 日本FIDバスケットボール連盟
近畿ブロック担当委員	熊谷 美緒	一般社団法人 日本FIDバスケットボール連盟
中国・四国ブロック担当委員	岩崎 英子	一般社団法人 日本FIDバスケットボール連盟
九州ブロック担当委員	山元 晃一	一般社団法人 日本FIDバスケットボール連盟
男子代表チームHコーチ	小川 直樹	一般社団法人 日本FIDバスケットボール連盟

男子代表チームコーチ	津曲 栄智	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
男子代表チームコーチ	谷口 英謙	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
男子代表チームコーチ	小川 裕樹	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
女子代表チームHコーチ	一松 倫子	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
女子代表チームコーチ	花輪 希圭	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
女子代表チームコーチ	鈴木 麗	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
代表総務	吉田 朋代	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
代表総務	矢坂 太一	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
代表広報	大沼 弘法	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
代表財務	関 圭子	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
代表事業	氣田 陽介	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟
事務局長	金塚 敏行	一般社団法人 日本FID バスケットボール連盟

<男子選手>

氏名	Age	P	身長 (cm)	体重 (kg)	ブロック	所属	所属クラブ
中嶋 高志	19	C	190.6	86.0	九州	マクドナルド久留米店ゆめタウン店	福学クラブ
平塚 天清	19	PF	178.6	72.0	九州	エデンの園	ブルーホーク
大下 誠	24	SF	172.4	67.0	中国・四国	東洋パートナー株式会社	山口県選抜
門脇 治喜	20	SF	176.3	60.0	中国・四国	(医法)季朋会 王司病院	山口県選抜
細谷 晃誠	18	PF	179.5	71.0	東海・北信越	ファイロードコンサルタント(株)	新種ライジングサンズ
栗澤 護	24	PG	163.5	71.0	東海・北信越	多摩川モーターエレクトロニクス(株)	飯田ファイヤーズ
畑 和弥	20	SG	170.9	53.0	東北・北海道	(株)佐藤クリーニング	会津レッドブルズ
鈴木 健志	25	SF	173.0	70.0	関東	首都高パトロール(株)	メイジャーズ
岩澤 光矢	22	SF	177.0	76.0	関東		メイジャーズ
弦巻 学	22	SF	179.8	93.0	関東	備長扇屋横浜関内店	メイジャーズ
山田 智之	22	SF	172.1	74.0	中国・四国	スターバックスコーヒージャパン(株)	広島市選抜
小中 祐輝	19	SF	182.3	64.0	近畿	JR 西日本あいウィル	大阪IDBBC
山本 修平	18	C	180.8	90.0	関東	日本食研スマイルパートナーズ	ビッグスリー千葉
秋元 祐貴	20	PG	165.5	66.0	関東	日立物流八千代東営業所	サンパークス
大森 洸	21	SF	181.1	59.0	関東	(株)ロピアららぽーとTOKYO-BAY 店	サンパークス
富崎 匠	25	PG	162.4	59.0	関東	キーコーヒー(株)	サンパークス
T・プライアン	16	C	190.6	82.0	関東	東京都立王子特別支援学校	都立王子特別支援学校
根津 友和	20	SG	172.5	63.0	関東	佐川急便(株)相模原緑営業所	つばさクラブ

<女子選手>

氏名	Age	P	身長 (cm)	体重 (kg)	ブロック	所属	所属クラブ
田村 奈々	23				九州	長崎メディカルセンター	長崎県選抜
神田 歩美	24		152.1	46.0	中国・四国	(株)アルク 今宿店	山口県選抜
篠田 佳南	20		181.5	63.0	関東	NRI みらい(株)	メイジャーズ
篠塚 葉月	20		152.7	56.1	関東	中条商事(株) 中国飯店六本木店	つばさクラブ

【総括】

今年度の育成事業として、6月29日、30日の2日間に渡り全国ブロック選抜合宿を実施した。昨年度までは育成事業として U-18のアンダーカテゴリーを設けて実施していたが、今年度からは年齢枠を撤廃。また各ブロックの活動の充実化を目的として、全国を「全国障がい者スポーツ大会」（以下全スポ）の予選ブロックに準じた6ブロックに分け、各ブロックに担当委員を1名配置した。

初めての試みではあったが、4月から6月に行われる全スポの各ブロック予選会の視察、ブロックごとの合宿、交流大会などを経て、各ブロック男女各2名、計24名の規模で推薦選手をあげる作業を行った。今回の合宿時期と各ブロックの予選会日程の関係から、各ブロックから均等に2名ずつの推薦とはならなかったが、全国から男子18名、女子4名の召集となった。

男子については、身長が190cmを超える選手が2名、180cm前後で身体能力の高い選手や、大きさはないがスピードがあり、ボールハンドリングや感覚的なセンスが良い選手が存在し、どの選手も自分の持ち味を發揮し期待が膨らむ選手たちであった。コーチングスタッフの評価とは別に、気になる選手として、190cmを超えるビッグサイズのブライアン（関東：東京都）、中嶋（九州：福岡県）の2名、また、秋元（関東：千葉県）、根津（関東：東京都）、小中（近畿：大阪府）、平塚（九州：宮崎県）の4名を挙げたい。

今回のブロック選抜合宿の成果の一つとしては、「全国から選手を召集できたこと」である。また、課題は様々あるが、ブロック委員が一同に集まり情報交換、情報収集ができ今後の展望が見えてきたことも大きい。

12月の2次合宿への選手召集については、男女あわせて24名を基準に、新しい選手の選出も含め、男女ともに全体で調整しながら進めて行くこととなった。今回作成した「ブロック選抜について」の内容も検討、共通理解を深め、選手の発掘、選抜から合宿参加に至るまでは、各ブロック担当委員が丁寧に進めているところである。

今後は、

- ・全エリア各ブロックにて合宿(1回以上/年)を開催すること
- ・選手の選考基準を構築すること

この2点を近々の目標として取り組みたい。

将来的展望としては、東日本エリア、西日本エリアごとの規模を拡大しての合宿を実施し、ブロック選抜大会等々の実施も検討し、実現に向けて活動していく所存である。



2019年度 ブロック選抜合宿 男子チーム 練習メニュー

都立王子特別支援学校、都立北特別支援学校

TIME	SUBJECT
2019-6-29	
11:00	測定 ウォーミングアップ+ランニングジャンプ、スタンディングジャンプ ドリブルシュート、ペリメータシューティング スクリーメージ(3team 7min×2sets) 2team 5spot シューティング
15:15	ウォーミングアップ(ストップトレーニング)+ランニングジャンプ、スタンディングジャンプ ドリブルドリル ボールミート フルコート 1on1(ボール無し)
17:00	スクリーメージ
2019-6-30	
9:15	ウォーミングアップ+ランニングジャンプ、スタンディングジャンプ ドリブルシュート シューティングドリル;ムービングシュート 3lane 3on2 3on2→3on3 4on3
12:00	スクリーメージ 2team 5spot シューティング



【所見・課題】

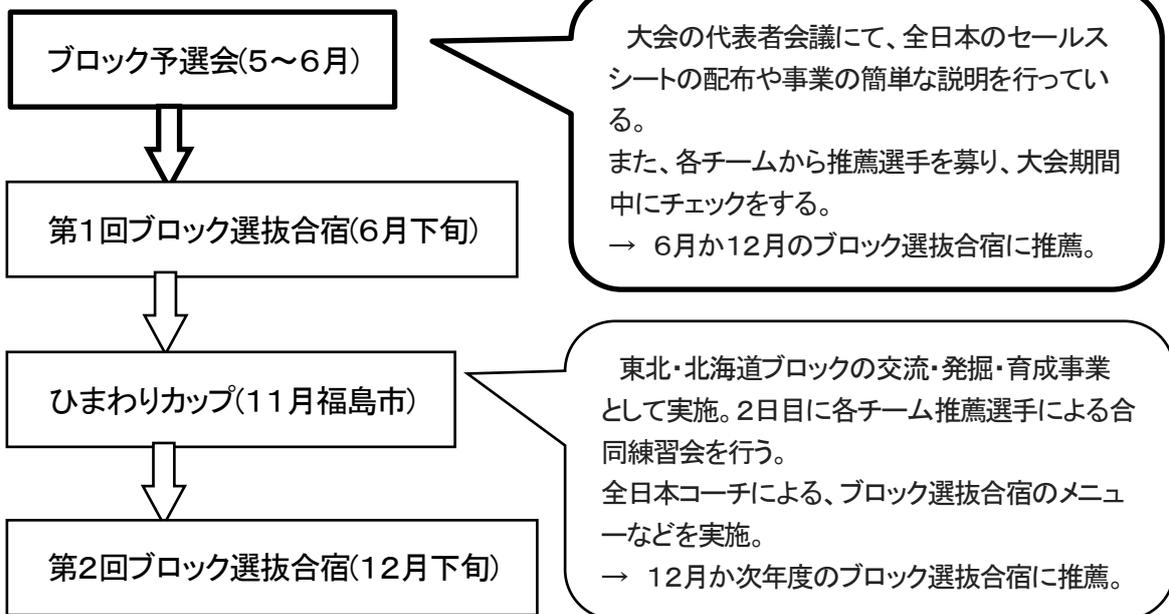
今回の合宿全体をとおして、全国の各ブロックから多くの選手が集まったことは大きな成果であった。特に、地方組同士で会話をしたり仲を深めたりと、緊張感の中にも安心や楽しさを感じながら参加する選手の姿も見られた。

練習やスクリーメージから、各ブロックにて、男女ともに体づくりやファンダメンタルの底上げが必要であると感じた。また、バスケットボールのルールや用語の理解についても身に着けたうえで合宿に臨めるとより良いと感じた。

女子に関しては、3×3のルールや戦術理解を各ブロックで取り組むべきなのかが、今後の検討事項の一つとして挙げられる。

【各ブロックでの取り組み方(東北・北海道ブロック)】

今年度のスケジュールで今後進んでいく想定として、以下のような流れでブロック間の交流・発掘・育成を進め、ブロック別選抜に繋げていきたい。



ブロック内で推薦選手が多数となり、参加人数の制約が発生した場合の調整方法は今後の検討事項である。現在本ブロックでは第1候補、第2候補…と発掘した順に割り振りをしている。

また、ブロック選抜チーム対抗の大会なども開催できると、それに伴ってブロック内の合宿なども設定しやすいく考える。今後はより一層ブロック内の連絡体制や関係を深めていくことを目標とする。

【所見・課題】

今回、初めての「ブロック選抜」の合宿を実施した。全国を6ブロックに分け、基本男女2名ずつ推薦された選手を集め、男子18名、女子4名が集まった。初めての試みでもあったので、男女ともに初めて推薦された選手や過去に代表入りをしていた選手もいる中での合宿を行った。

男子は全国から身体能力の高い選手や身長が190cmを超える選手もおり、スピードのある選手やドリブル技術が高い選手など、今後の成長に期待できそうな選手がいた。

女子に関しては推薦選手が4名しかおらず、関東の代表選手を招集して一緒に合宿を行った。3on3の練習だが、初めて参加した選手にとっては、貴重な経験になったと思う。

今回のブロック選抜合宿を行う中で、選手や関係するスタッフが全国から集まり、その中で情報交換や情報収集をすることができた。また、各ブロックを担当する人が集まり、疑問に感じていた部分を話し合い、次回の12月への合宿に向けた選考基準などを確認することができた。

今後も各ブロック担当と情報交換をしながら選手の発掘や選考基準を明確にし、多くの選手が合宿に参加できるようにしていきたい。

東海・北信越ブロック担当委員
工藤 義教

【所見・課題】

今年度の育成事業として、「ブロック選抜」の合宿を実施し、東海・北信越ブロックからは男子2名が参加した。

栗澤 護選手[長野県]については、過去代表に選ばれている経験から、自分が自信を持ってプレイできるガードのポジションでその能力を発揮していた。細谷晃誠選手[新潟県]については、初めての環境に戸惑いがあり、初日の午後から、頭痛、吐き気により休むことになった。2日目は復帰したが、終始緊張している様子が見られた。

男子選手全体を見ると、藤田ブロック長がおっしゃるとおり、高身長 of 選手や身体能力の高い選手や、ボールハンドリングに長けている選手が存在し、どの選手も自分の持ち味を発揮しアピールしていたと思う。

女子については、詳しく見ていなかったなので具体的な話とはできないが、現代表と選抜選手の力の差は大きかったように見えた。しかし、それぞれの選手が良い物を持っているので、所属チームでさらなる高みを目指して練習に励み、今よりも実力をつけてまた次の選抜合宿に参加してもらいたいと思う。

次回までにクリアしなければならない課題として、女子の選抜選手の参加数を増やすことが必要と感じた。参加数を増やすためには各ブロック代表が、各チームの関係者と連絡を取り合える環境整備をしなければならない。そのためにブロック代表の名刺も早めにいただければ有り難い。

今回のブロック選抜合宿の成果の一つとしては、「全国から選手を召集できたこと」である。私自身、ブロック代表としてどんな業務をしていかなければならないか正直よく分からない部分があったが、各ブロック代表が一同に集まり情報交換や情報収集ができた。今後の具体的な業務や動きについて、ブロック代表で連絡を取り合い、詰めていければと思う。

12月の2次合宿への選手召集については、男女あわせて24名を基準に、新しい選手の選出も含め、全体(男女)で調整しながら進めていくこととなった。各ブロック大会の運営についてや、各ブロックでの合宿の開催など、今後も連盟とブロック代表で連絡を取り合い、よりよい運営につなげていきたい。



近畿ブロック担当委員
熊谷 美緒

【所見】

(男子)

今回召集された選手は、身体能力、技術力、理解力、適応力の高い選手が多いと感じた。いつもと違う環境で、いつも通りのプレイをすることは容易ではないが、自分の得意なことを表現し、互いの良さを引き出しあった場面も多かったのではないかと感じている。

(女子)

身体の使い方など課題は多いが、実践的な練習には対応できていたように感じた。今回のような各ブロックからの選抜、練習メニューや対応など育成選手には、課題設定・目標設定をするために必要な時間であると感じた。

【課題】

推薦選手の選出に当たっては、本人の意思・理解、支援者へ説明・確認が重要と考える。選抜の基準や選出後の取り組みや活動の見通しが持てるように委員長、各ブロックの委員と連携をとり整理していかなければならない。また、女子については3×3に対応できることも考慮しなければならないため、各ブロックでの3×3の普及についても検討が必要であると思う。

【近畿ブロック】

今回、推薦選手の選出については、以前より日本代表の活動に興味を持っており、今後の活動についても意欲的で生活面・情緒面が安定していることを考慮し、男子1名を選出した。

近畿ブロックでは、これまで監督間で連絡を取り合い練習試合や交流試合実施していた。これまでの取り組みをベースに、各チームにご理解・ご協力を頂き、ブロックでのクリニックや合宿を予定できればと考えている。

中国・四国ブロック担当委員
岩崎 英子

【所見・課題】

4月27日、28日に開催された全国障がい者スポーツ大会予選ブロックの監督者会議で、この育成合宿のことや各ブロックより男女2名ずつ参加することが可能だということを伝えた。今まで自分自身(鳥取県)、中国四国ブロックのチームとの交流が少なく、他県の選手のプレイをじっくりと見る機会があまりなかった。そのため、日本連盟へ選手推薦をするに当たり各県の監督(男女)より推薦を上げてもらい、それを集約するかたちをとった。

期限を決め推薦者をメールにて知らせるよう文書も渡したが、連絡があったチームは山口県、広島市、高知県、徳島県の4県のみだった。女子チームに至っては、個別で監督へ連絡をとって見たが「該当する選手はいない。」という返答ばかりで、女子選手を推薦することに苦労した。

中国四国ブロックで女子チームが立ち上がっているのは6チームのみ(鳥取、島根、岡山、山口、愛媛、徳島)。各チームともキーポイントとなる選手が1名いて、他選手はキーとなる選手に合わせてプレイをするスタイルである。

推薦するにあたり「育成」という視点で育成合宿へ参加が可能であれば、推薦候補者はいる。その点については、各ブロック委員での話し合いでも話題が上がった。

中国四国ブロックの課題として、各チーム監督や事務局との連携を図れるように各県が主催している交歓交流大会等への参加や視察を行っていきたい。

今回の合宿でブロック委員が集まり情報交換や情報収集ができたことは、非常に大きな収穫であった。中国四国ブロックでも強化合宿や大会を実施できれば、選手発掘や育成がもっと円滑にできると感じた。それを実施するためには、ブロック内の連携を強固なものにしていくよう努力していきたい。

九州ブロック担当委員
山元 晃一

【所見】

地方の選手にとって日本代表は憧れであり、手の届かないほど高い存在である。仮に、代表に招集されて合宿に参加しても代表メンバーやスタッフ等の慣れない環境で、十分に力を発揮できずに自信喪失したり、うまくアピールできないまま終わってしまう選手がいたが、今回のブロック選抜合宿では、男子で参加した中嶋と平塚は適度な緊張感を持って、いい状態でプレイすることができていた。

一方、女子の田村はブロック選抜選手よりも代表選手の方が多く、緊張もありと毎度もかなりあったようだが、時間が経つにつれて、自分らしいプレイができるようになっていた。田村にとっては、代表選手と一緒に練習できたことで自分に足りないことがよくわかったようだったので、今後の成長を期待したい。

九州ブロックでは、H29年度から九州合宿を実施しており、さらに九州での大会を開催したいということから、今年4月に九州FID バasketボール連盟を設立した。今年度は、11月に鹿児島県で第1回九州FID バasketボール選手権大会、2月に沖縄県で九州合宿を開催する予定である。今後、九州連盟として、2つの事業を通して、九州のレベルアップを図るとともに、優秀な選手を全国に推薦できるように努力していきたい。

【課題】

九州から関東や愛知県で開催される合宿に参加するとなるとそれぞれの選手が所属する県から飛行機での移動になってしまうため、それぞれの選手に対してコーチや保護者の引率が必要になる。これまでその引率は自費であることを説明して理解していただいているので問題にはなっていないが、引率する方にはかなりの自己負担をしていただいている。

そこで例えば推薦された選手の所属するチームのコーチを日本連盟が主催する指導者研修会に参加させるという形でブロック選抜合宿に招集し、そのコーチの交通費等を連盟から負担していただくことは可能か否か検討が必要であると感じている。



FID 男子日本代表チーム
ヘッドコーチ 小川 直樹

【所見】

今回招集した18名の選手は予想以上に個々の能力が高く、何事も適度にこなす様子を見て驚きを隠せなかったというのが本音である。各所属チーム、またブロックでの交流会や技術講習会等で強化普及育成が確実に図られていると感じた。

但し、運動能力が高い分、自分勝手に何でも好きにプレイするというのはチームスポーツでは有り得ない。またファンダメンタルを強化すれば更にパフォーマンスが上がる選手も多く存在し、基本を大事にすることをドリルの中で伝えた。

シュート、ドリブル、パス等の基本的動作はある程度の合格点を付けることが出来たとしても、瞬時に訪れる「判断」の誤りが非常に多かった。なぜならば、自分の眼で見て確認するという行為が抜けているからである。この部分は ID 選手にとって非常に難しい部分であり、不得手である。また、指導する側もかなりの根気が必要であり、多くの時間を要する。然し、この行為を疎かにするとすべてが「感覚」としての捉えになってしまう。男子代表チームでも同じような課題が残るが、その都度コーチがプレイを止めて選手に確認する場面が多々ある。考えながらプレイをする選手とそうではない選手とでは大きな差が生じる。感覚ではなく、自分の眼で見て判断するということを良き習慣として選手、コーチが受け止め、今後実践してくれることを期待したい。

190cmを超える選手が2名、またスピードや技術力に優れた選手も多く存在するため、将来的に代表チーム入りする可能性はある。

初日に簡易的な個人測定を実施した。測定項目は以下の通りである。

○身体測定

身長、体重、指極、指高

○運動測定

5m スプリント、20m スプリント、垂直飛び、ステップ50、マルチステージ

運動測定は基本的に瞬発系、持久力系を取り入れ、各選手が所属クラブでも定期的に測定できる項目とした。総体的に持久力系は期待していた数値に届かない選手が多く、本格的な競技として取り組むためには常日頃のトレーニングは必須である。

今回招集した選手が各ブロックに戻り、得たものを地域に還元できる環境作りが重要である。各ブロック並びに代表チームと連携しながら、強化育成に尽力する考えにある。

FID 男子日本代表チーム
コーチ 津曲 栄智

【所見】

初めての試みで実施したブロック選抜合宿であった。事前に選手情報がなかったため、スクリメージを実施し、その後、課題を見つけ練習を行った。

全体的にボールハンドリングはナショナルチームのメンバーと比較しても見劣りはしないように感じた。シュートに関してはシュートフォームが定まっておらず、スキルアップが必要だと感じた。パスについては感覚で出してしまう選手が多かった。ディフェンスに関しては、各所属先のルールがわからないなか、簡単にナショナルチームの考えを伝えたが、すぐにできるものではなく1on1で相手を止めるという意識が低い。また、ヘルプのポジション、ヴィジョンができておらず、ベースラインを抜かれると誰もヘルプができていなかった。

若い選手が大半であったためか、体の使い方、特にストップが上手く出来ない、膝とつま先の方向をきちっと指導する必要があると感じた。

中嶋、ブライアンはサイズがあるので今後戦力となりうる選手になってもらいたい。平塚は身体能力がありコンタクトにも強く、今後アウトサイドのスキルが上達すれば戦力となる。また、ハーフからプレッシャーをかけたディフェンスは目を見張るものがあった。秋元は、状況判断、間合いの取り方、ヴィジョン、フィニッシュスキルなど普通にプレイ出来ていた。根津はスピードがあり、良いドライブを何本も決めていた。

小中は線が細いが今後に期待したい。名前を挙げた選手はナショナルチームのセカンドチームと言えるレベルではないかと感じた。

【課題】

体の使い方、きちっとストップできること。また、ファンダメンタル、シュート確率のアップ、ボールハンドリングの向上。ディフェンスでのポジション・ヴィジョン・コミュニケーションの理解。

FID 男子日本代表チーム
コーチ 谷口 英謙

【所見】

個々の能力と、IQはかなり高い選手が多かった。練習メニューやテストも、1回説明し、取り組むことができていた。しかし、バスケットボールのスキルや知識などは、個々に差が生じていた。ゲームになると顕著に現れ、プレイを連携しようという意識のある選手は少なく、1on1 とリバウンドの連続で、ペイント付近で5人がプレイをする状況が多かった。しかし、基礎的なスキルや考え方を丁寧に教えることで、2日目のゲームでは、かなりプレイエリアに広がり、3人くらいの連携でブレイクや2メンゲームを少しできるようになった。このような合宿を経て、評価することにより、世界大会で戦える選手の発掘は大きく前進すると思う。12月の合宿後、評価し、来年度の代表合宿への参加を促す。そして、代表の活性化を行い、チーム力向上を行いたい。

【課題】

- バスケットボールの基礎的な知識
スクリーンアウト、トリプルスレット、Vカット、ヘルプ、ディナイなど
→各ブロックでの講習会で伝達したい。(指導者への共通理解)
- 選手の集め方
選手の発掘、声掛け、全国への宣伝(魅力発信)
→現在HPの作成が進んでいるので、合宿時に頂いた、「ブロック選抜について」や「INAS登録の流れ」など作成して、保護者などに説明する場合、だれでも同じことが説明できるようにする。
費用面や期間(登録に要する時間等)なども同様(保護者に説明する場合重要)。

FID 男子日本代表チーム
コーチ 小川 裕樹

【所見】

今年度から年齢制限(U-18)が撤廃され、新たにブロックから選手を推薦してもらい事業を実施した。事前のスタッフミーティングで協議し、初めて見る選手が多かったため、初日はウォーミングアップ後、3つのグループに分けスクリーメージを行った。コーチ、各ブロック委員が見守る中、緊張した面持ちでプレ

イをしていた選手が多かったが、徐々に慣れていく様子が伺えた。

オフェンスは2メンゲームを仕掛けようとする選手が多かったが、スクリーナーとのタイミングが合わず、ターンオーバーになってしまうことが多々あった。しかし、現在代表チームも2メンゲームを起用しているので、基本と応用を覚えれば大きな武器になると思う。個人的には宮崎の平塚選手と山口の門脇選手は非常にレベルが高く、代表チームに合流させても経験を積ませても良いと感じている。

合宿終わりに各スタッフとの個人面談を行い、各選手に課題を与えた。第2回の合宿までに各選手がスタッフから与えられた課題をクリアし、成長した姿を期待したい。

FID 女子日本代表チーム
ヘッドコーチ 一松 倫子

【所見】

第1回ブロック合宿の女子参加者は、九州ブロックから1名、中国・四国ブロックから1名、以前代表チーム育成選手であった2名の選手を加えた4名となった。しかし、4名では充実した練習をするのが難しいため近隣のチームから現代表メンバーに参加を促し、両日10名程度で練習を行った。

女子代表チームは、今年のグローバル大会が3×3で開催されることが決まっている。私がコーチとなったこの数年、女子の開催方法がなかなかはっきりしなかったため、5人でも3人でもバスケットボールの基本的な考えや技術は同じであると考え、個々の基礎的な技術の向上と速いプレイのための早い準備と早い判断をテーマに取り組んできた。

今回のブロック合宿でも、自分自身の体のコントロール、ボールの扱いなど、個人の技術向上を中心にを行った。また、3×3を意識したスクリーメージの中で、コミュニケーションの必要性や動きの強弱など、実践を通して確認した。

代表選手と一緒に練習をするということもあって、推薦された選手たちは緊張して動きに硬さが見られたが、徐々に自分らしさを出せるようになっていた。最終日の面談で、「せっかく来たのだから思い切ってプレイしようと思った」等の選手も話しており、意識の高さと日頃から自分の気持ちをコントロールする習慣が身についていると感じた。筋力や体力、基礎的な面など課題はあるが、実践となると、ゴールに向かう姿勢やゴールされまいとする気持ちがコートで表現できていて、今後が楽しみな選手ばかりであった。

少ない人数ではあったが、今後につながる実りある第1回の合宿となった。同行して頂いたスタッフの方から地元での女子の活動に関して伺ったところ、高校卒業後バスケットボールを続ける環境に難しい面があるようだった。今回の合宿は、第1回ということで連盟スタッフの課題も挙がってきたので、合宿時だけでなく、日頃から地元チームのスタッフと連携をとり、女子の活動においても裾野が広がるよう努力をしていきたい。

FID 女子日本代表チーム
コーチ 花輪 希美圭

【所見】

今回女子はブロック選抜としての参加は5名のみで、代表メンバーに練習参加を依頼しての実施となった。今回初めて合宿に参加したメンバーについては、意欲と不安な気持ちと両方を感じたが、指示された練習に一生懸命取り組もうとする姿が見られ、好感がもてた。共通して、ドリブルやハンドリング、シュート等基本的なスキルについてのドリルでは課題が多く、代表選手との差が感じられた。しかしながら、3×3など実践的な動きになるとそれぞれの持ち味をプレイの中で見せており、ゲームでは各チームの中心と

なっているということがわかった。それぞれの選手が良いところをもっている。基本的なスキルが身に付けばさらに良くなるのではないかと感じられた。

【課題】

- ・ブロック選抜実施についての課題は、選手の選抜である。ブロック担当のスタッフと話をしても、どの基準の選手を推薦するかという点で悩むということが聞かれた。女子は競技人数も少なく、代表のレベルでプレイができる選手は一握りである。しかし、伸びる要素が十分あるという選手であればもう少し枠を広げられるのではないかと。今回で色々な事が確認されたと思うので、年末の合宿の際には女子の選手がもう少し増えると良い。
- ・スキルについては、代表合宿でもそうだが、基礎的なことができていない選手が多い。高いレベルでのバスケットになればなるほど、基礎的なことが大事になってくると感じている。各県で練習時間や頻度はまちまちで、基礎的なことに取り組む時間はあまりないところもあるかもしれないが、基礎・基本の徹底は課題として各ブロック・各チームで取り組めると良い。

FID 女子日本代表チーム
コーチ 鈴木 麗

【所見】

今回の育成合宿では、各ブロックから招集され4名の参加だった。代表候補となっている選手も招集し、計11名での練習を行った。

練習内容としては、3人制を経験することを念頭に入れ、それに繋がるようなドリブル、シュート、ディフェンスなどの個人スキルを上げる練習を行った。

全体的にハンドリングが足りず、対人になると上手く攻められないことが多く見られた。しかし、代表候補選手と一緒に練習を行ったことで、育成せんしゅから「もっと〇〇出来るようになりたい」などの言葉を聞くこともあり、大きな刺激があったようだ。自分からチャレンジして攻めていく選手もいれば、うまく合わせようとする選手もいて、それぞれ自分ができること、得意なことを探しながらプレイすることができたように思えた。

自チームでも取り組める内容を組み込んでいるので、個人スキルの向上を継続していけると良い。

【課題】

- ・基礎を固めていく練習を入れる。
- ・練習の目的を明確にし、ポイントを絞った練習内容にしていく。
- ・もう少しわかりやすく、簡単な練習内容で進めていく方が良いか、実践を交えて対人を増やしていく方が良いか、今後検討していく。



FID 日本代表チームサポート企業・団体・サポーター様

株式会社 デンソー様

株式会社 CIJ ネクスト様

株式会社誠行社様 フィットネス・ラボ P2M 様 株式会社村井工業様

有限会社中村製作所様 Gio Code 株式会社様 株式会社笹森様

石丸典生様 株式会社スマイルワン様

杉本弘毅様 野崎龍華様 岩村浩人様 大野敦史様 鶴谷伸之様 和田洋幸様 榊原英治様
伊勢 徹様 川口正高様 川口美樹様 中島正雄様 古川雅司様 高橋 徹様 蛭川 稔様
あんどうたかお様 大村亜理様 中山克良様 富田順也様 笹森勝義様 篠田東吾様 梅瀬 豊様
森本和朗様 小林千夏様 竹ノ内由紀子様 角田正博様 大塚一義様 田中 光様 辻元由美様
小玉隆史様 鶴岡将史様 小森健太郎様 関 信介様 足立哲哉様 南原勝一様

多大なるご支援・ご声援を賜り心から感謝申し上げます